

10月から

保育所・幼稚園で

フッ化物洗口を始めます

平成20年度の道内における12歳の平均むし歯本数は2.2本で、全国平均1.5本を上回り全国でワースト3となつていきます。岩見沢市の平均むし歯本数は、道内と同じ2.2本です。

市は、幼児期からの歯の健康を守る取り組みとして、10月から保育所・幼稚園に通っている4歳と5歳の希望する子どもたちを対象に、厚生労働省、北海道が推進しているブクブクうがいによるフッ化物洗口推進事業を始めます。

この事業は、必要な薬剤などを北海道と市で負担し、岩見沢歯科医師会の支援と指導のもと、保育所・幼稚園と協力し、1週間に2回行います。

フッ化物洗口でむし歯を予防

むし歯を予防するためには、糖分を適正に摂取することやむし歯菌の除去、フッ化物による歯質の強化を併せて実践することで効果が上がります。



美流渡保育所では、昨年9月から1分間のブクブクうがいによるフッ化物洗口を行っています。

ます。しかし、甘い食べ物や飲み物に含まれる糖分やむし歯菌は、子どもだけの歯みがきでは十分に取り除くことは困難です。

そこで、フッ化物により、歯の質を丈夫にすることが大切になります。フッ化物には、酸に溶けにくい歯を作り、むし歯菌を抑えたり、小さなむし歯を修復したりする働きがあります。

生えて間もない永久歯の表層にあるエナメル質は、すき間や不純物が

多く未熟な状態で、酸に溶けやすくむし歯になりやすいと言われていきます。しかし、子どもの成長に伴い、だ液中のカルシウムやリンが、このすき間に取り込まれ、不純物と置き換わり徐々に安定した丈夫な結晶に成熟することにより、丈夫な歯になります。フッ化物は、むし歯になり

かけたエナメル質の結晶に組み込まれ、そのフッ化物の働きにより、歯の質がより強くなります。

フッ化物洗口の実践効果

新潟県は、昭和45年に弥彦村の小学校で初めてフッ化物洗口を開始しました。そして、子どもたちのむし歯が減少したことから、昭和56年からは保育所から中学校まででフッ化物洗口を実施しました。その結果、12歳の一人平均むし歯本数が、平成12年から6年間連続して、全国で一番少ない県となりました。問合先 市教委子ども課

フッ化物洗口Q&A

Q 歯みがきでむし歯予防はできないでしょうか？

A 歯みがきでむし歯の原因となる菌こうを100%取り除くことは不可能です。歯ブラシが届かない奥歯のかみ合わせの溝や歯と歯の間にむし歯がでやすく、歯みがきだけではむし歯を予防することはできません。

しかし、歯みがきは歯肉炎などを予防するために大切です。

Q フッ化物洗口には劇薬を用いると聞きましたが、大丈夫でしょうか？

A フッ化物洗口に使用される薬剤は劇薬ですが、洗口するときには、それを0.1%の濃度に薄めるので、劇薬ではありません。

仮に1人分を誤って全部飲んでしまっても急性中毒が起こる心配はありません。なお、このフッ化物洗口に使用する薬剤の中毒量は12人分以上です。